

皆さんの医療費の状況をお知らせします!!

共済組合では「短期給付財政安定化計画(データヘルス計画)」及び「医療費適正化対策事業」の一環として、平成26年度及び平成27年5月分のレセプト(診療報酬明細書)をもとに医療費の統計を行いました。どのような病気で医療機関にかかっているのか、1人当たりどれくらいの医療費が使われているのか、年齢によってどのような病類が多いのかなどの目安になります。また、組合員の皆さまには年2回の医療費通知を行っておりますので、日頃から医療費への関心をもっていただくことが、皆さまの健康と健全な医療保険制度の運営につながります。



本人と家族の医療費を全国、関東地区と比較すると…

平成27年5月の本人と家族の医療費を集計し、全国及び、関東地区7共済組合の平均額と比較しました。

1人当たりの医療費は関東地区平均、全国平均を上回っており、1件当たり・1日当たりの医療費はほぼ同額か下回っています。

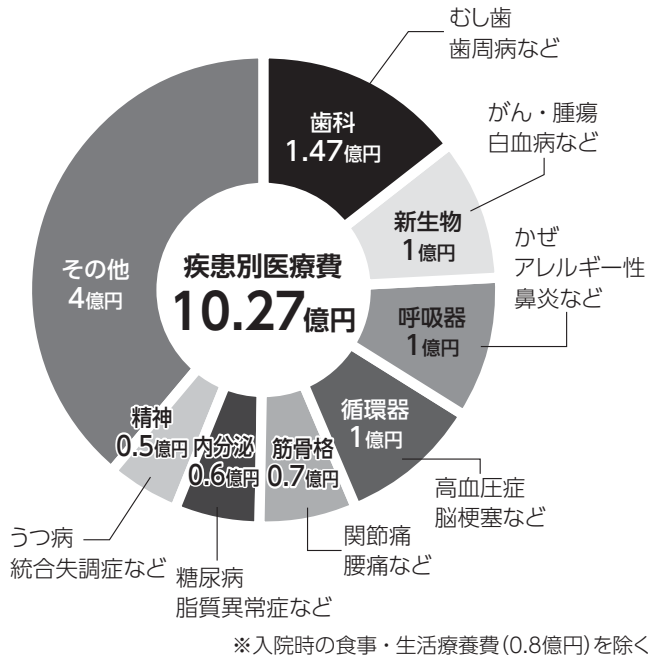
項目ごとに見てみると、1人当たりの医療費は約1.2万円を超え、関東地区では4位とやや上位に位置しています。1件当たりの医療費は17,976円で、関東地区内ではほぼ平均金額ですが、全国平均額と比べると低い金額となっています。1日当たりの医療費は11,541円と、関東地区で6位と低順位です。

1人当たりの医療費(円)			1日当たりの医療費(円)			1件当たりの医療費(円)		
1	栃木県	12,260	1	千葉県	12,210	1	山梨県	18,834
2	千葉県	12,231	2	山梨県	12,125	2	千葉県	18,776
3	東京都	12,230	3	東京都	11,995	3	東京都	18,433
4	埼玉県	12,013	4	茨城県	11,894	4	栃木県	18,183
5	山梨県	11,864	5	栃木県	11,543	5	茨城県	18,180
6	茨城県	11,460	6	埼玉県	11,541	6	埼玉県	17,976
7	神奈川県	11,121	7	神奈川県	11,463	7	神奈川県	17,558
8	群馬県	9,878	8	群馬県	10,069	8	群馬県	15,071
	関東地区平均	11,731		関東地区平均	11,663		関東地区平均	17,966
	全国平均	11,909		全国平均	11,926		全国平均	18,546

医療費を疾病分類別にみると

平成27年5月の1ヶ月の医療費を疾病分類別にみると、「歯科疾患」が全体の約15%を占め1位となっています。2位は長期治療が必要な「新生物」(主にがん)となり、小さいお子様がかかりやすいかぜやアレルギー性鼻炎などを含む「呼吸器系の疾患」、高血圧症や脳梗塞など治療が高額になる「循環器系の疾患」と続き、それぞれ約10%となっています。また、薬剤費は約2.8億円となっており、1位の「歯科疾患」と比較すると約2倍の金額となっています。

平成27年5月の疾病分類別医療費の構成割合と薬剤費



+



歯科疾患の約2倍となっています。この薬剤費のうちジェネリック医薬品の利用は30%程度となっています。



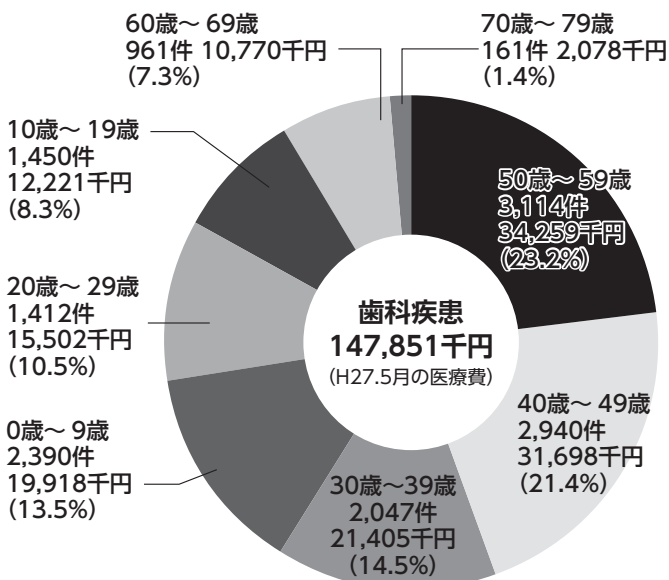
ジェネリック医薬品のご検討を!

共済組合では医療費適正化対策事業の一環として、ジェネリック医薬品を推奨しています。まだジェネリック医薬品をお使いでない方は、ジェネリック医薬品への変更をぜひご検討ください。

歯科の受診状況をみると

平成27年5月の歯科の医療費について年齢階層別でランキングすると、下記グラフの結果となり、50歳～59歳の年齢層が全体の約23%を占め、1位となっています。また、40歳～49歳を含めると全体の約45%を占めています。1人当たりの医療費は年齢とともに30歳代から増加していますが、これは歯の2大疾患である虫歯や歯周病が進行し、差し歯や入れ歯を必要とする治療が多くなるためです。毎日のケアと早めの受診でお口の健康を守りましょう。

歯科疾患の年齢階層別の医療費と構成割合



歯科疾患の一人当たりの医療費

年齢階層	1人当たり医療費(円)
0歳～4歳	661
5歳～9歳	1,900
10歳～14歳	974
15歳～19歳	526
20歳～24歳	821
25歳～29歳	1,064
30歳～34歳	1,216
35歳～39歳	1,338
40歳～44歳	1,443
45歳～49歳	1,482
50歳～54歳	1,741
55歳～59歳	2,083
60歳～64歳	2,378
65歳～69歳	2,551
70歳以上	2,809

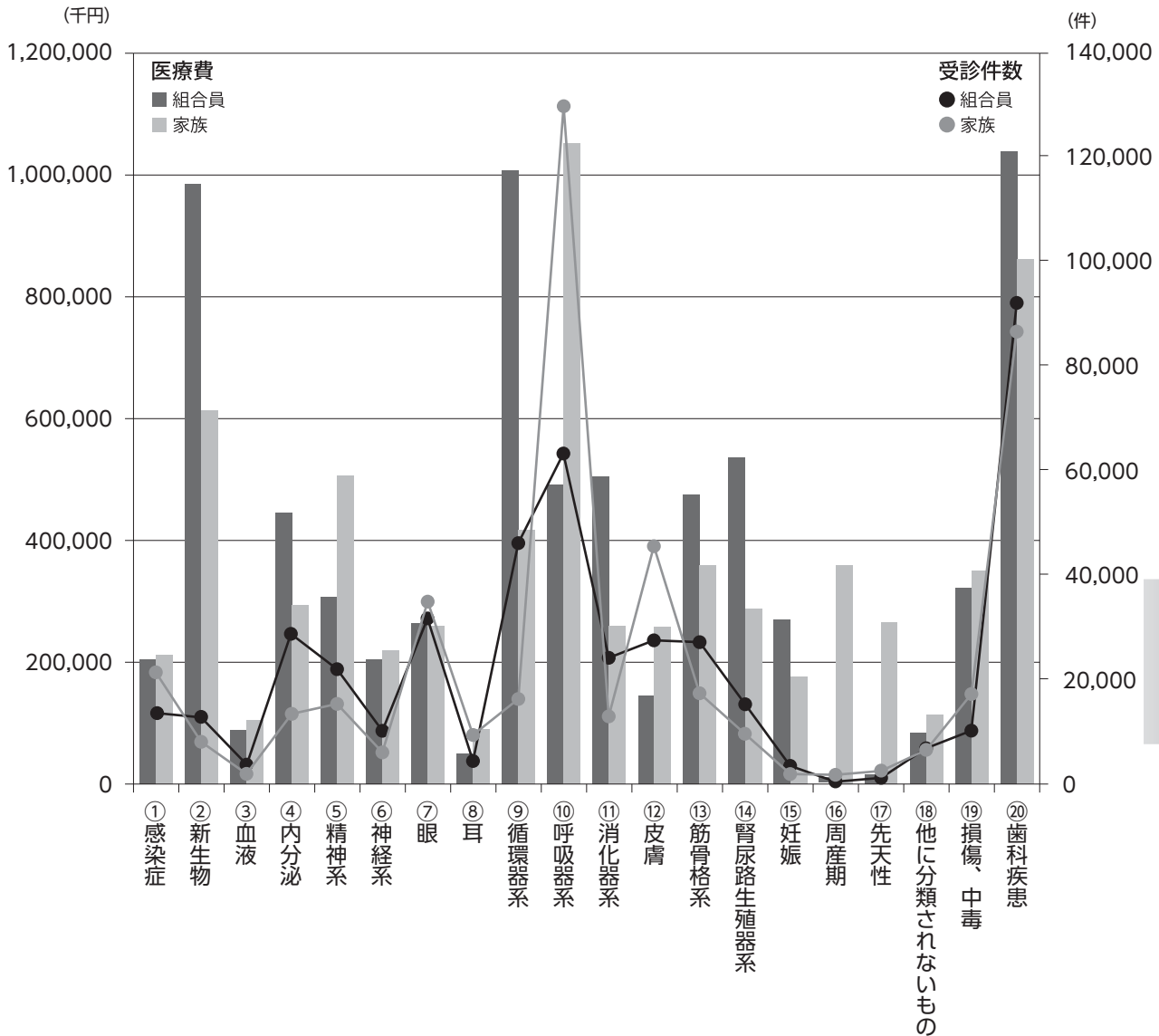
乳歯から永久歯への生え変わり時期である5歳～9歳がとび抜けて高い

年齢が高くなるにつれ高額になる
55歳以上では2,000円超

平成26年度の医療費と件数を疾病分類別にみると

組合員と家族を合わせた合計の件数は「呼吸器系の疾患」が最も多く、医療費では「歯科疾患」がトップで、「循環器系の疾患」、「新生物」と続きます。

組合員でみると「歯科疾患」、「循環器系の疾患」、「新生物」の医療費が多いことがわかります。家族では「呼吸器系の疾患」、「歯科疾患」、「新生物」の医療費が多くなっています。また、近年増加がみられる疾病として統合失調症やうつ病を含む「精神系の疾患」を挙げるすることができます。特に家族の精神系の疾患が高いことがわかります。



さらに年齢階層別に詳しく分析すると...

項目	主な傷病名
① 感染症	結核、ウイルス肝炎
② 新生物	腫瘍、白血病、がん
③ 血液	貧血
④ 内分泌	糖尿病、脂質異常症
⑤ 精神系	うつ病、統合失調症
⑥ 神経系	パーキンソン病、てんかん
⑦ 眼	結膜炎、白内障
⑧ 耳	外耳炎、メニエール病
⑨ 循環器系	高血圧症、脳梗塞
⑩ 呼吸器系	かぜ、アレルギー性鼻炎

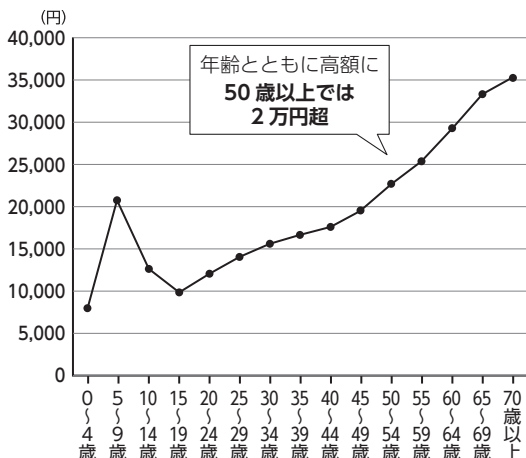
項目	主な傷病名
⑪ 消化器系	胃炎、肝炎
⑫ 皮膚	湿疹、にきび
⑬ 筋骨格系	関節症、腰痛
⑭ 腎尿路生殖生殖器系	腎不全、尿路結石症
⑮ 妊娠	流産、切迫早産
⑯ 周産期	胎児発育の障害
⑰ 先天性	染色体異常
⑱ 分類否	ほかに分類されないもの
⑲ 損傷・中毒	骨折、やけど
⑳ 歯科疾患	むし歯、歯周病

1人当たりの医療費を疾病分類別にみると

$$\text{1人当たりの医療費} = \frac{\text{疾病分類ごとの総医療費}}{\text{平均組合員数} + \text{平均被扶養者数}}$$

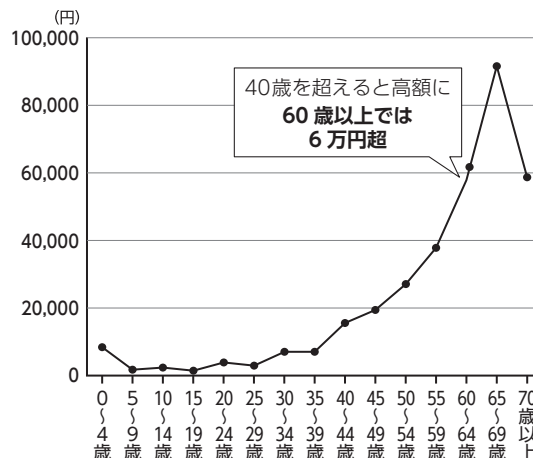
歯科疾患

むし歯、歯周病など歯の疾患では、5歳～9歳が2万748円と高く、また、50歳以上からも2万円を超え年齢を重ねるごとに高くなっていく傾向にあります。65歳以上では3万円を超えています。



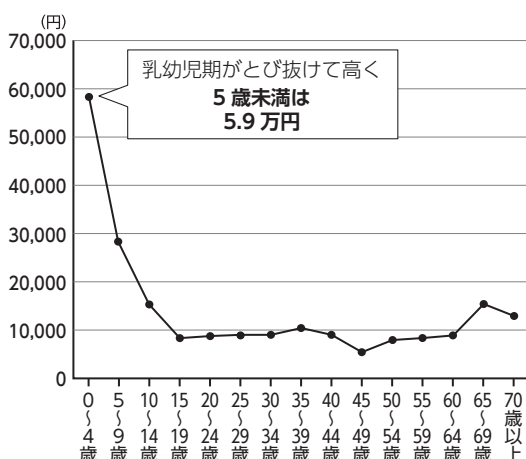
新生物

乳がん、胃がん、肺がんなど主にがんの疾患で、40歳から年齢とともに徐々に高くなり、60歳以上は約6万円を超えています。特に65歳～69歳では9.2万円ととび抜けて高くなっています。



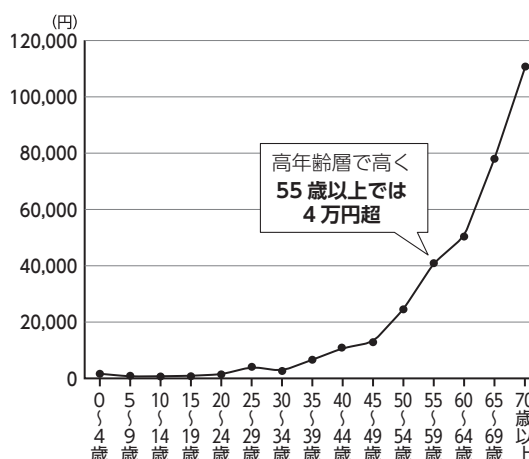
呼吸器系の疾患

かぜ、アレルギー性鼻炎、喘息等を含む呼吸器系の疾患では0歳～14歳までが65歳以上よりも高い傾向にあります。特に乳幼児期は5.9万円ととび抜けて高くなっています。



循環器系の疾患

循環器系の疾患では狭心症などを含む心疾患や脳内出血などの脳疾患が多くみられ、30歳まではほぼ横ばいですが、40歳以上からは1万円を超え、50歳を超えると一気に増加します。



これまでの統計・分析から依然として高血圧やがんなどの生活習慣病関連の医療費が多いことがわかります。また、その一方で、むし歯やかぜなど身近な病気も件数が多いことから、毎日の歯磨きやうがい、手洗いなどの予防に努めることで医療費を減らすことができます。

特に生活習慣病は40歳代を境に右肩上がりに受診者数が増加し、その医療費も高額になります。年に一度は健診を受け、運動や食事、禁煙、飲酒など、日頃の生活習慣を見直し、元気で健康的な暮らしを目指しましょう。